

8. 環境情報の収集について

石田幸洋 稲津悦朗

I 緒 言

今日の環境問題へのシステムアプローチを図るためには、地域の環境汚染の現況に限らず種々の環境情報が体系的に整備され、迅速かつ効率的に活用されることが肝要であり、更に社会・経済的条件に関する情報の整備も重要である。すなわち、各種の公害測定データや統計データは勿論、地形図、地質図、土地利用図等の環境関連の地図情報が電算処理による定量的な分析・評価に有効な形で収集されていることが必要である。また、人間の生活、生産活動に関する基礎的な情報である国勢調査、工業統計調査結果も整備しておくことが必要と考える。

地図情報については電算処理を前提とした数値変換処理が必要であるが、総理府が実施する国勢調査等の調査結果はそれぞれメッシュ化が行われ、「地域メッシュ統計データ」として市販されているため手軽に入手できる。

本報では、代表的な手法であるメッシュ法により全県の地形図をメッシュ化し、且つ「地域メッシュ統計データ」のうち人口と所帯数を電算処理にて磁気テープに格納したので、その処理方法と利用にあたっての留意点について報告する。

II 方 法

1 地 形 図

図-1に示した国土地理院発行の1/5万地図を、「地域メッシュ統計」等に用いられている標準地域メッシュ(JIS C 6304-1976)(図-2参照)により、20等分のメッシュに区画線引きした

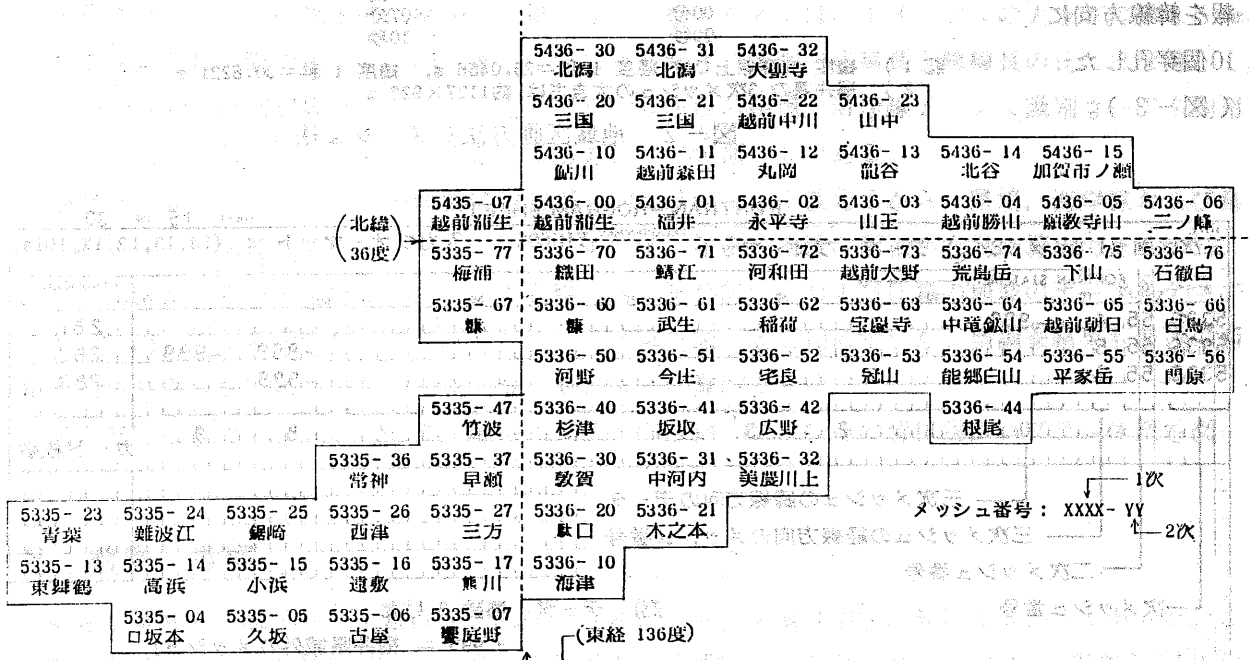


図-1 福井県域1/2.5万地形図名(国土地理院発行)
(地形図名上の数字は、メッシュ番号を示す)

(四-3)。

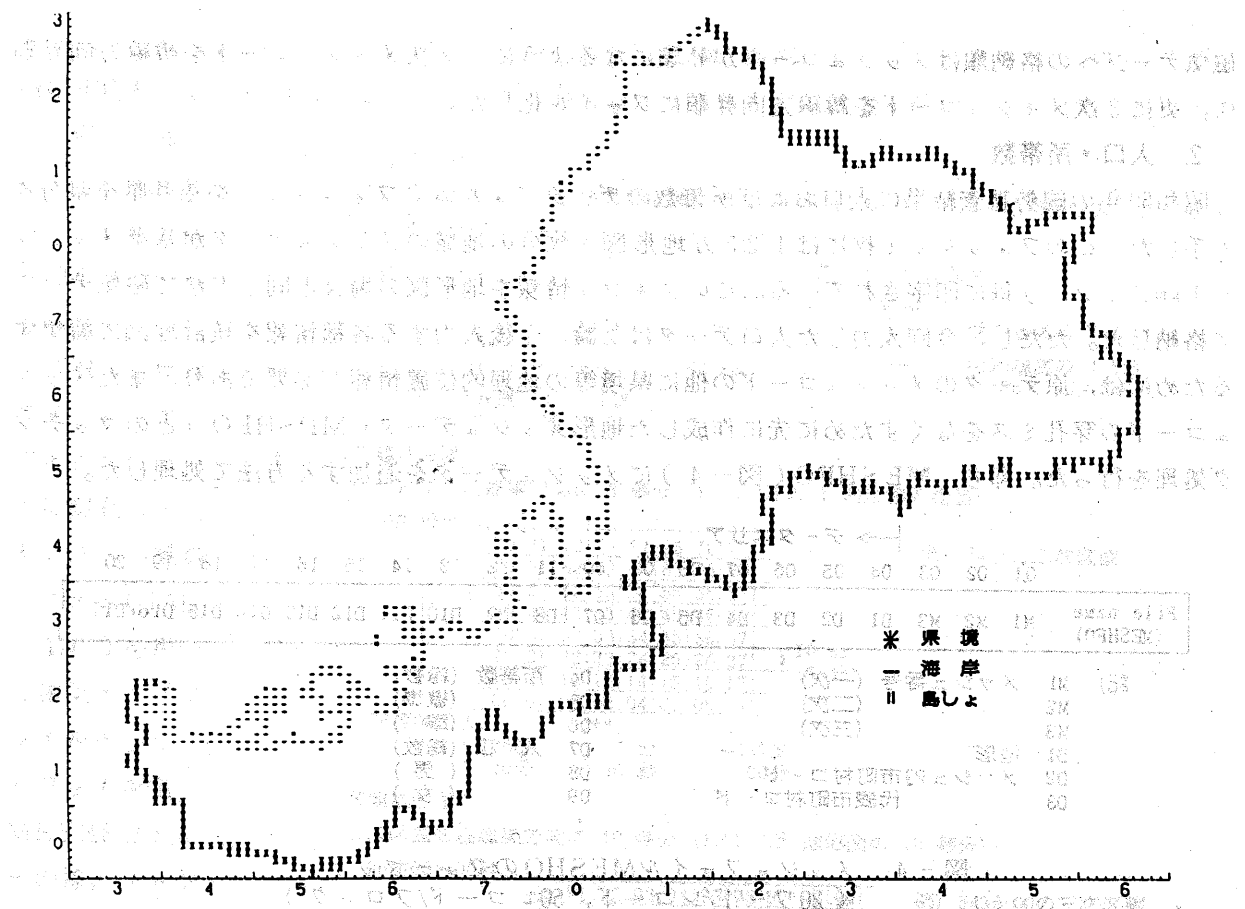


図-5 福井県域輪郭

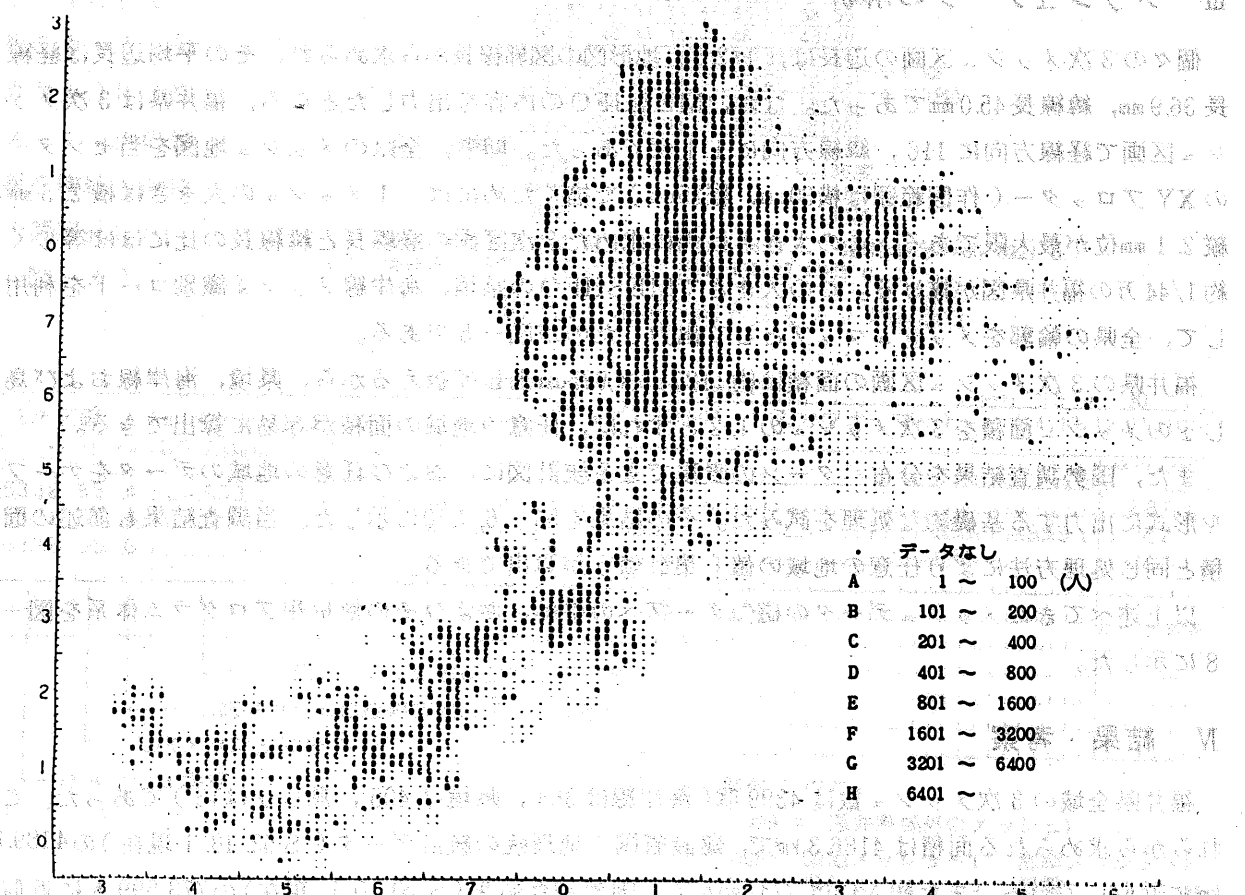


図-6 人口分布統計メッシュマップ

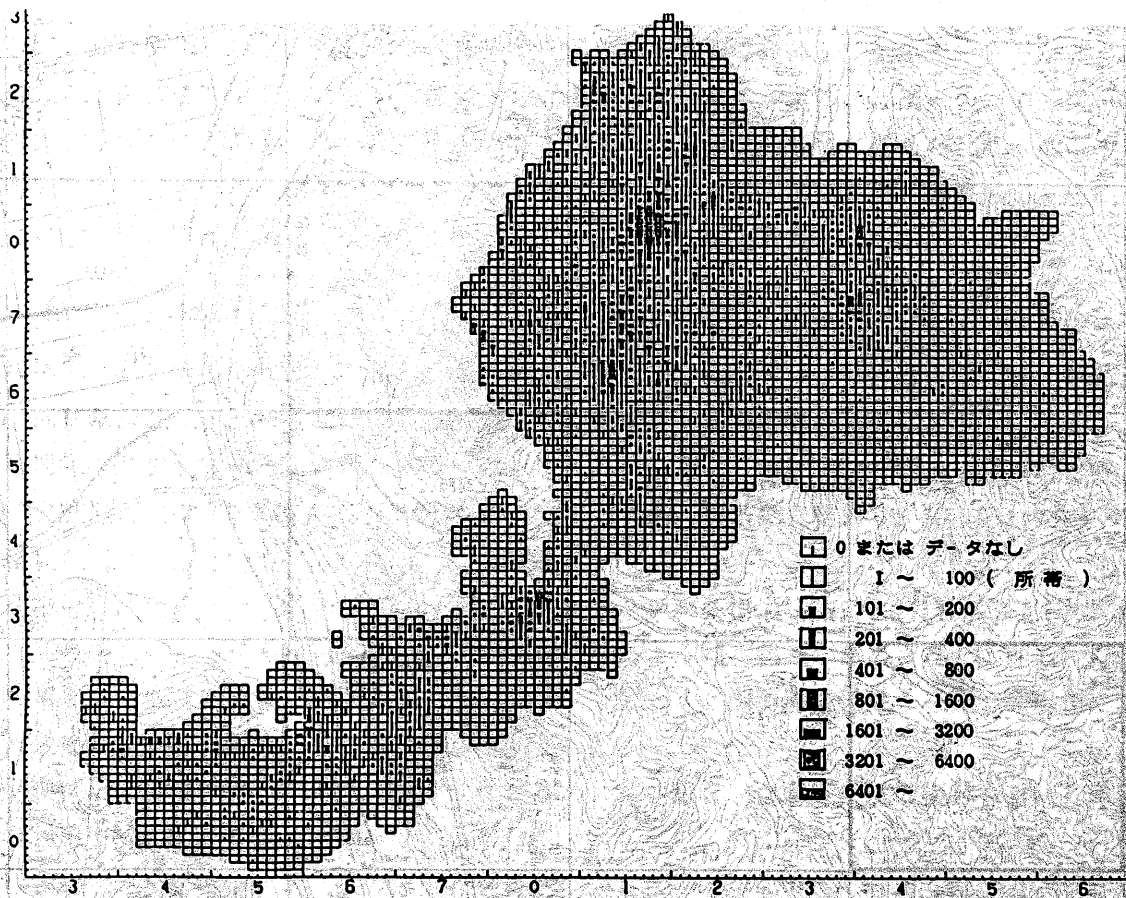


図-7 所帯総数分布統計メッシュマップ

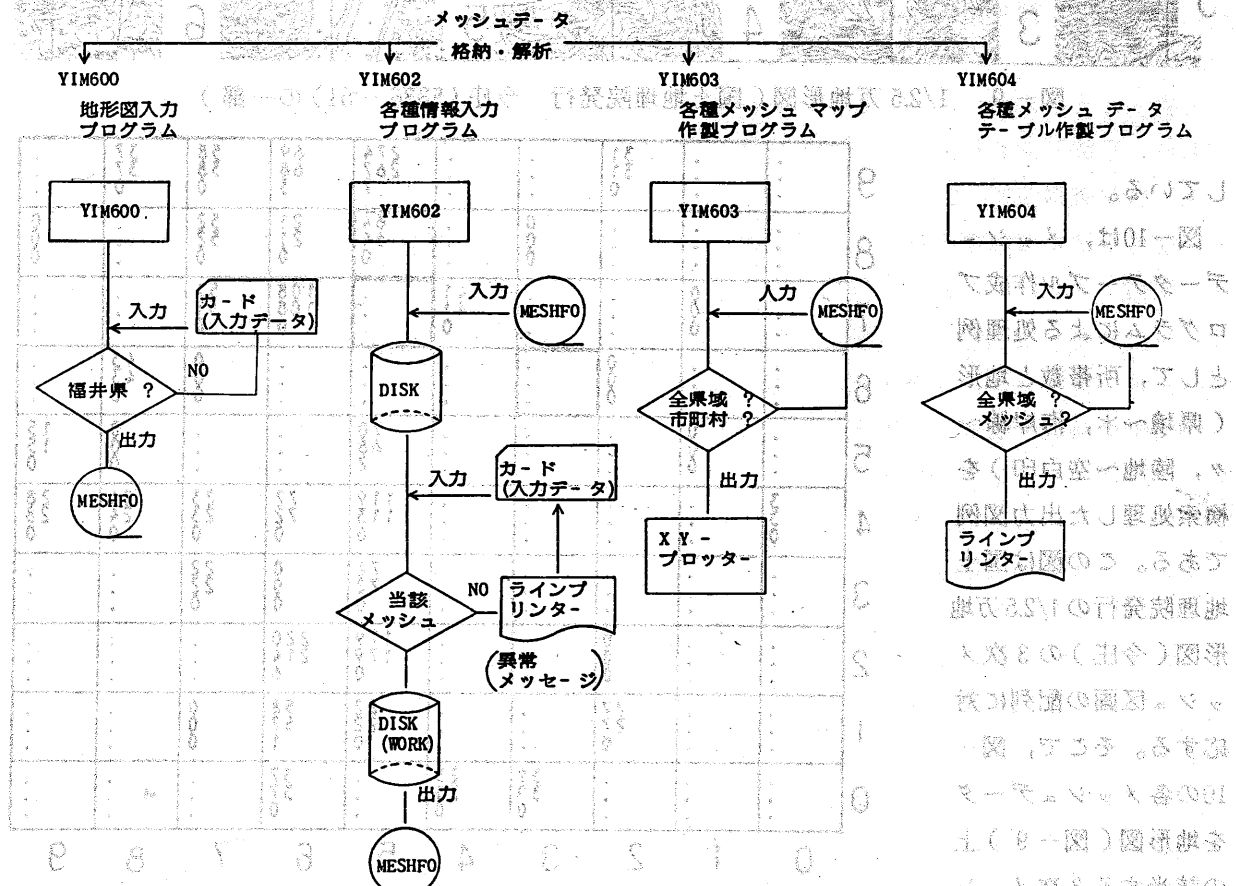


図-8 メッシュ・データの格納・解析用プログラム

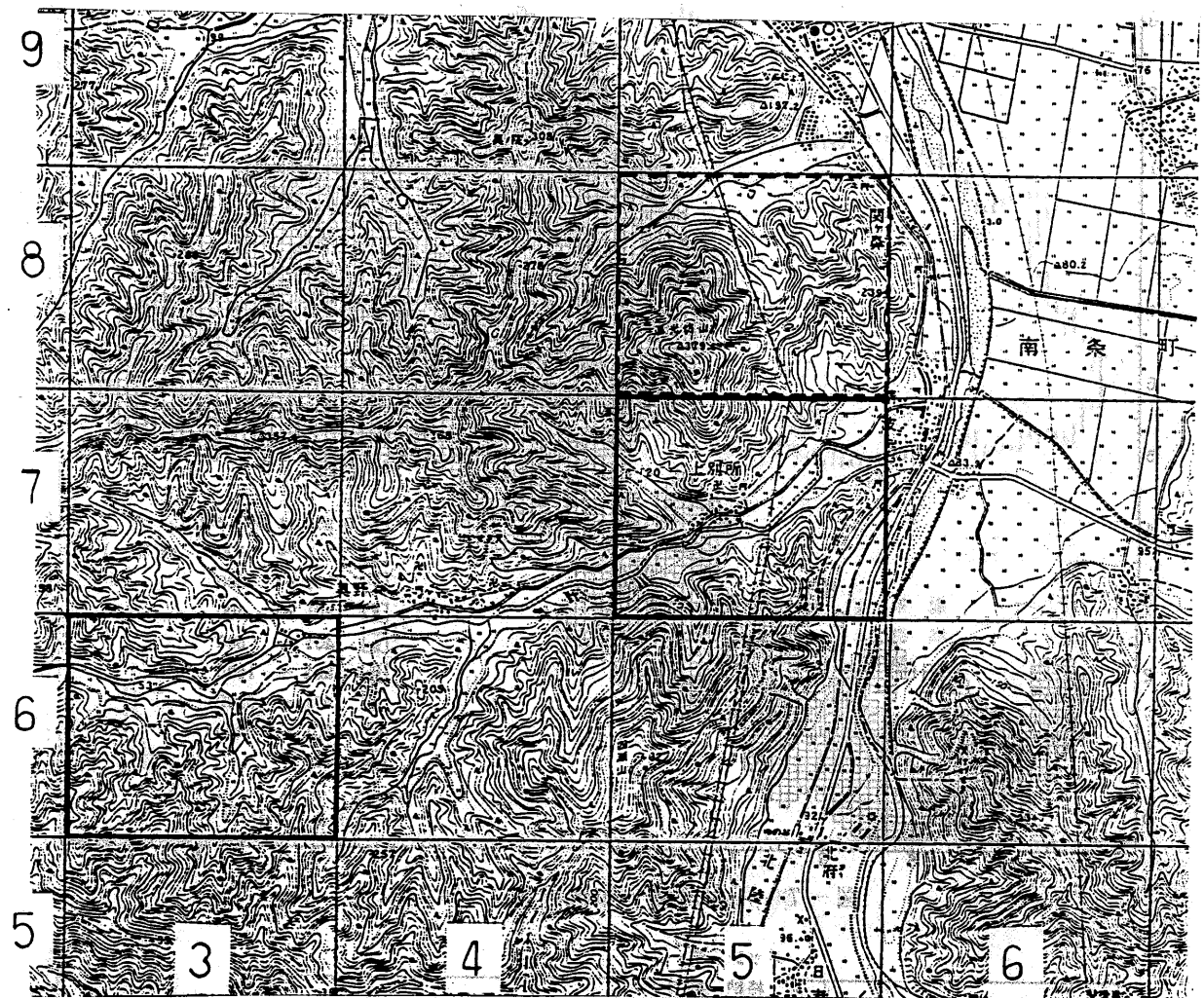


図-9 1/2.5 万地形図（国土地理院発行 今庄（5336-51）の一部）

している。

図-10は、メッシュデータテーブル作成プログラムによる処理例として、所帯数と地形（県境～＊，海岸線～〃，陸地～空白印）を検索処理した出力図例である。この図は国土地理院発行の1/2.5 万地形図（今庄）の3次メッシュ区画の配列に対応する。そこで、図-10の各メッシュデータを地形図（図-9）上の該当する3次メッシュ区画内の地形情報に

9	:	:	310	:	:	2747	693	580	370	:
8	:	:	:	00	:	640	210	520	:	00
7	:	00	:	:	410	:	1080	510	:	:
6	:	:	00	:	:	:	:	00	430	:
5	:	00	:	:	:	7062	:	:	00	150
4	30	:	:	:	:	1191136	720	230	240	280
3	:	:	:	:	:	720	00	220	:	:
2	:	:	00	:	:	1791790	2202146	:	:	:
1	:	:	270	:	:	220	381	00	:	:
0	:	:	:	390	250	:	370	:	4	:
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

図-10 メッシュデータテーブル

上段～総所帯数，中段～標準所帯数，下段～準所帯数

